

第3回 「核なき未来」オピニオン U-20の部 最優秀賞作品
<RECNAによる日本語仮訳>

子ども時代の恐怖からグローバルな行動へ：世界の指導者たちへの手紙

石山力輝

親愛なる世界の指導者の皆さまへ

もし明日が来なかつたら？
今日が家族と過ごせる最後の日だつたら？

核兵器の恐ろしさについてこんな問い合わせが脳裏に浮かぶたび、私は疲れぬ夜を過ごしました。あなた方の保有する核兵器が、ボタン一つで私の故郷のすべてを消し去ってしまうと想像することは本当に恐ろしいことでした。

柔らかな純白のシーツの下に隠れた9歳の私は、この悪夢のような思考を振りはらおうと努め、恐怖ではなく平和の中で生きたいと願っていました。しかし、核兵器が地球に存在し続ける限り、私の恐怖が消えることはありません。

今では恐怖で疲れなくなることはありませんが、それでもなお、あなた方が今日も核兵器を開発し続けていることを理解できずにいます。あなた方は、広島や長崎の悲劇を決して忘れてはならないと繰り返し訴えてきました。しかし、あなた方の行動はその約束を裏切るものでしかありません。今もあなた方の持つ12,000発以上の核弾頭が、106,825人の被爆者と併存する世界を作り出しています。

106,825人の被爆者は、広島と長崎を覆った巨大なキノコ雲によって一瞬にして消滅させられた、数えきれない人々の血と涙を目撃した人々です。

106,825人の被爆者は、子どもたちがその存在の痕跡すら残せず灰になって、家族が嘆き悲しむ姿も見てきました。

106,825人の被爆者はまた、あの日以来、自らにまとわりつく病に苛まれています。内側からも外側からも彼らを苦しめ、深い傷痕を残し、耐え難い痛みをもたらしているのです。

あなた方は、過去80年において世界大戦が起きていないことを引き合いに核兵器が世界の安定を維持し、戦争を防ぐために必要であると、私たち若い世代を説得しようとしてきまし

た。しかし、あなた方の国が直接的に戦争に関与していないからといって、他の場所で戦争が起こってこなかったわけではありません。あなた方の国も加盟している国連によると、ロシアやイスラエルなどの核保有国が関与する紛争で命を落とした民間人は、昨年だけで33,000人以上に上ります。

私は、言葉にならない核兵器への恐怖が私のDNAに深く刻まれているという、祝福されているのか、あるいは呪われているのか分からぬ運命の下に生まれました。これらの恐怖は、まるで古代の影が長く忘れられた悪夢の深淵からその最も暗い秘密をささやくかのように、私の骨の髄にまで染み込んでいるのです。

世界20億人の子どもたちは私のような「DNA」を持っているとは限りません。

日本国外の同級生と話をしてみると、長崎のことを知らない人もいました。同級生らは、広島と長崎への原爆投下と無辜の日本人市民の犠牲を正当化し、世界には核兵器が必要だと主張する同級生もいました。

同じ一文の中に「正当化」と「広島」という言葉が出てくるのを聞いたとき、私がどれほど怒りに震えたか言葉では表せません。それは、まるで道義性と歴史の織りなす布をナイフで切り裂かれるような感覚でした。

しかし、彼らを責めることはできません。彼らも私と同じ人間です。

彼らは核兵器が平和を維持する一つの形であると誤解させられてきました。この誤った情報のために、彼らは核兵器の本当の影響について学ぶ機会がなかったのです。だからこそ、私は別のアプローチをとることにしました。それは、私自身の経験を共有してもらうことで、他の人々に被爆の実相を理解してもらおうという道です。

アメリカの高校の歴史の先生と協力して、同級生たちが広島と長崎の原爆について学び、核兵器に対する見方を考え直す機会を作りました。原爆の被害について詳しく伝えたときの彼らの反応は非常に大きなものでした。多くがショックを受け、今あなた方が持っている核兵器がさらに大きな破壊をもたらす危険性に初めて気付いたのです。

その後、私は「ひろしまジュニア国際フォーラム」という会議に参加し、世界の現状について高校生たちと議論する機会を得ました。米国のように核兵器を保有する国から、ドイツのように保有しない国まで、参加者はそれぞれの考え方やアプローチを共有しました。私たちの背景や信念は異なっていても、世界を平和に向けて導くという共通の目標を持っていることに気が付きました。この会議は、共通の理解が達成可能であるという希望を私に与えてくれました。

れました。あなた方にもこの協働の場に参加いただき、より明るい未来のための希望の架け橋を目撃していただけたらと思いました。

これらの二つの経験、すなわち核兵器について教えることと議論することで、私は、機会は単に与えられるものではなく自ら創り出すものだ、ということに気づきました。だからこそ、ベンジャミン・フランクリンの言葉に、国籍を問わず、私たち全員が共感するのです。

「言われたことは忘れる。教わったことは覚える。参加したことは学ぶ。」

私たちは、特に子供たちが核兵器の現実を学び理解する機会を、世界中で創り出す必要があります。今こそ恐怖に立ち向かう時です。未来の指導者として、私たちは核兵器の現実について議論を始めなければなりません。

この手紙を世界の指導者の皆さんにお送りするのは、あなた方が国内に留まらず、世界的な影響力を持っているからです。それぞれの国の指導者としてというよりも、世界の指導者としてのあなた方の役割に私は注目しています。

あなた自身が持つ力について良く考えてみてください。あなた方ができることについて考えてみてください。今こそ、あなた方が希望の船を作るのか、それとも世界を無知と危険の深淵に沈めるのかを決める時です。

あなた方は、あらゆる年齢層の人々、特にあなたのように世界の指導者になることを目指している若い世代の理想像です。あなた方がすべての核兵器を廃絶する力を持っていながら何もせずにいたことを、若者が知ったときの困惑と怒りを想像してみてください。

あなた方は、未来の指導者たちに向けて価値ある知識と指導を提供することができます。核兵器の現実について学ぶことができる環境を育むことで、すべての人々にとって、より明るく安全な未来を形作る手助けができるのです。

もし明日が来なかつたら？

今日が家族と過ごせる最後の日だつたら？

私が9歳の時に見た悪夢が私だけで終わるのを願っています。

平和な未来への希望を込めて
被爆四世より